

【ラダー図】

プロジェクト名 : Error3
 プログラム名 : Main

- MR000~ : エラーフラグ (16bits)
- MR100~ : エラーフラグ記憶 (16bits)
- @T0 : メッセージ表示時間
- ACTIVE : エラーメッセージ表示スイッチ

- INDEX : 修飾用変数
- NASK : INDEXのリングカウンタ用マスク

- EM000~ : エラーメッセージ格納領域
- DM000 : エラーメッセージ表示領域
- SPAN : エラーメッセージ転送数 (32words)

00001

00002

00003



- エラーフラグを監視し, エラー記憶にラッチ.
- エラー記憶のどれかがTrueなら, 表示スイッチをTrueにする.
- エラー記憶の全てのbitの立下でメッセージをクリア.
- 次のエラーに備えて@T0をセット.

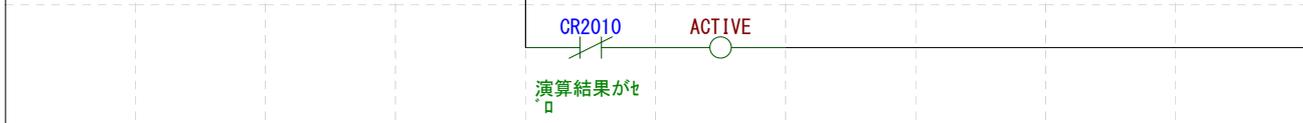
00004



00005



00006



00007

- [ACTIVE]がTrueの時, 実行.
- 表示用タイマがアップしたら, 以下を実行.
- エラー記憶フラグをリセット. (発生し続けている分はリセット後再びラッチするので表示は続く.)
- インデックスの更新.
- ONしているエラーメッセージを転送.
- 一定時間表示するために, タイマを初期化. (メッセージ転送しない)

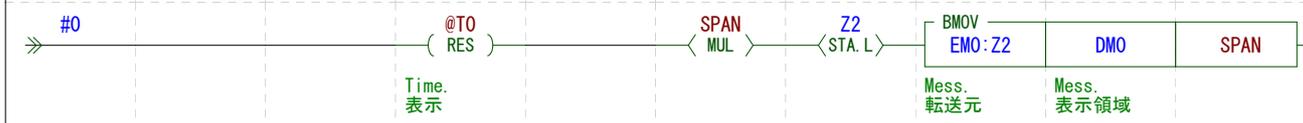
00008



00009



00010



00011



00012



00013



